

#マルシェをつくる





Contents

- 1 はじめに
- 2 マルシェ百景
- 10 みんなの使い方
- 14 趣味を並べる 偏愛マルシェ
- 26 “マルシェのいろは”がわかる はじめて出店ガイド
- 32 “お店”はじめました
- 36 マルシェをつくる 什器カタログ
- 38 小物を飾る 卓上ディスプレイシリーズ

DO IT YOURSELF

マルシェをつくる

『CAINZ DIY MAGAZINE』は、ホームセンターでおなじみのCAINZ (カインズ) が、暮らしの中にあるさまざまな「DIY」のかたちを伝えるメディア。日曜大工のイメージがある「DIY」も、本来の意味は「DO IT YOURSELF」。つまりなんでも“自分でやってみる”というくらしの姿勢。料理にインテリア、アウトドア。デジタル化が進む現代で、自分の頭で考え、手を動かすことで、くらしはもっと楽しくなる。さまざまな商品やサービスを通じて、そのきっかけを提案しています。

今回の特集は「#マルシェをつくる」。2000年代から日本で本格的に花開いたマルシェブーム。不特定多数の人に向けて小さな売り場をつくり、思い思いのものを売る行為は、マルシェ / マーケット / 市 / フェスとさまざまな名で親しまれ、週末には全国各地で何かしらのマルシェが開かれるほど、身近なものになりました。

そんなマルシェのづくり手が多く愛用しているのが、カインズのオリジナル家具シリーズ『CAINZ DIY MARKET (以下CDM)』。『『自分らしい』くらしをつくる家具』をコンセプトに、元は住まいを自由に彩るDIY家具として生まれましたが、今や“売り場を自由に彩るDIY什器”としてクリエイターに見出され、着々と愛用者を増やしています。

そこで本誌ではさまざまな売り手を訪ね、マルシェというひとつのムーブメントから、DIYの魅力を探ることにしました。そこにはきっと「自分らしいくらしをつくる」ヒントが隠れていると信じて。

1

グラスを売る

コロナ禍をきっかけに、自分につくれるものを模索してはじめてグラス製作。ひとつひとつ丁寧に絵付けしたグラスを通じて、くらしの楽しみを提案している。マルシェの醍醐味は、お客様のリアルな声や反応が見られること。製作にマンネリせず、常に新たな表現を考え続けていくためにも、必要な機会だという。



使用したCDMの什器 木製A看板 70cm (片面十字穴) / 持ち運びできるカウンターテーブル S /
持ち運びできる卓上ディスプレイ (10cm×4 段) / 折りたたみできる木製ディスプレイ

2

花を売る

移動販売車に什器を積み込めば、いつでもどこでもマルシェが開ける。「花屋は多くの人に支えられて成る仕事。それが売り場に並ぶまでに、品種開発者、生産者、運搬者、市場の人、たくさんの手が関わり、そのボタンを最後に受け取る重みを感じます」。マルシェも同じく、運営者や他の出店者、たくさんの人と協力しながらひとつの売り場をつくる楽しさがある。



使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターテーブル L / 簡単に組み立てられるピクニックテーブル /
組み合わせて形が変わるベンチ (2 個セット)

3 刺繍を売る

時間をかけてつくり上げる、繊細で綿密な刺繍作品。オンラインでの効率的な販売をやめてマルシェに絞ったのは、自分の目でお客様の顔を見たいから。「声を聞き、目を見て話ができることでお客様の存在を体感でき、次の製作のイメージが湧く」という。手仕事の温かみを伝えるには、素朴な木の什器がよく似合う。



使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターテーブル S / 持ち運びできるカウンターテーブル M / 置くだけで使えるカウンターフレーム / 持ち運びできる卓上ディスプレイ (10cm×4 段)

4 ラグを売る

ファミコンに道路標識、絆創膏……「子どもの頃から変わらずに好きなものをモチーフにした」という、ラグの概念を超えた新しいデザインのラグ。ユーモア満点のアイテムは、シンプルな什器によく映える。「自分自身がワクワクしながらつくっている気持ちそのままが伝わるような、ポップでキャッチーなディスプレイを意識しています」



使用したCDMの什器 木製A型スリムディスプレイ / 持ち運びできるカウンターテーブル L / 簡単に組み立てられる木製A看板 160cm (片面十字穴)

5 毛糸を売る

「小学生の頃から編み物が好きで、ある日愛用していた毛糸が廃盤になって、ならば自分でつくろうと思って」なんて、想像もしない物語がマルシェの奥には在る。凝り性な人柄は、店そのものを持ち出したような売り場の完成度からも伝わる。「毛糸は素材なので、お客様の手に渡ってからがスタート。旅立ちを見守るような気持ちでマルシェに立っています」。



使用したCDMの什器 木製A看板 160cm (片面十字穴) / 持ち運びできるカウンターディスプレイテーブル (四角) / 扇形コーナーディスプレイ

6 アクセサリーを売る

アクセサリーとは日常のきらめきで「身に着ける方の毎日が楽しくなるお手伝い」をするような仕事。ピアスからはじまって、今や壁飾りやキーホルダー、がま口などさまざまな商品があるのも、マルシェで出会ったお客様のリクエストに答えるうち。にぎやかなラインナップも自然に同居するのは、CDMの什器の懐の深さ。



使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターテーブル S / スーツケースに入る卓上パネルスタンド / 簡単に組み立てられるツリー型ディスプレイ

7 植物を売る

手のひらにおさまる小さな多肉植物の鉢植え。木の什器と植物の相性がいいのは、どちらも自然から生まれたものだからかもしれない。自然物はどれひとつとして同じ見た目でないのがつくる楽しさであり、難しさ。だからこそ直接手にとってもらうマルシェに価値がある。「できるだけ一覧で見やすく、選びやすいような並べ方を心がけています」。



使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターディスプレイテーブル (半円) / 置くだけで使えるカウンターフレーム / 持ち運びできるカウンターテーブルM / 折りたたみできる木製ディスプレイ

EXTRA

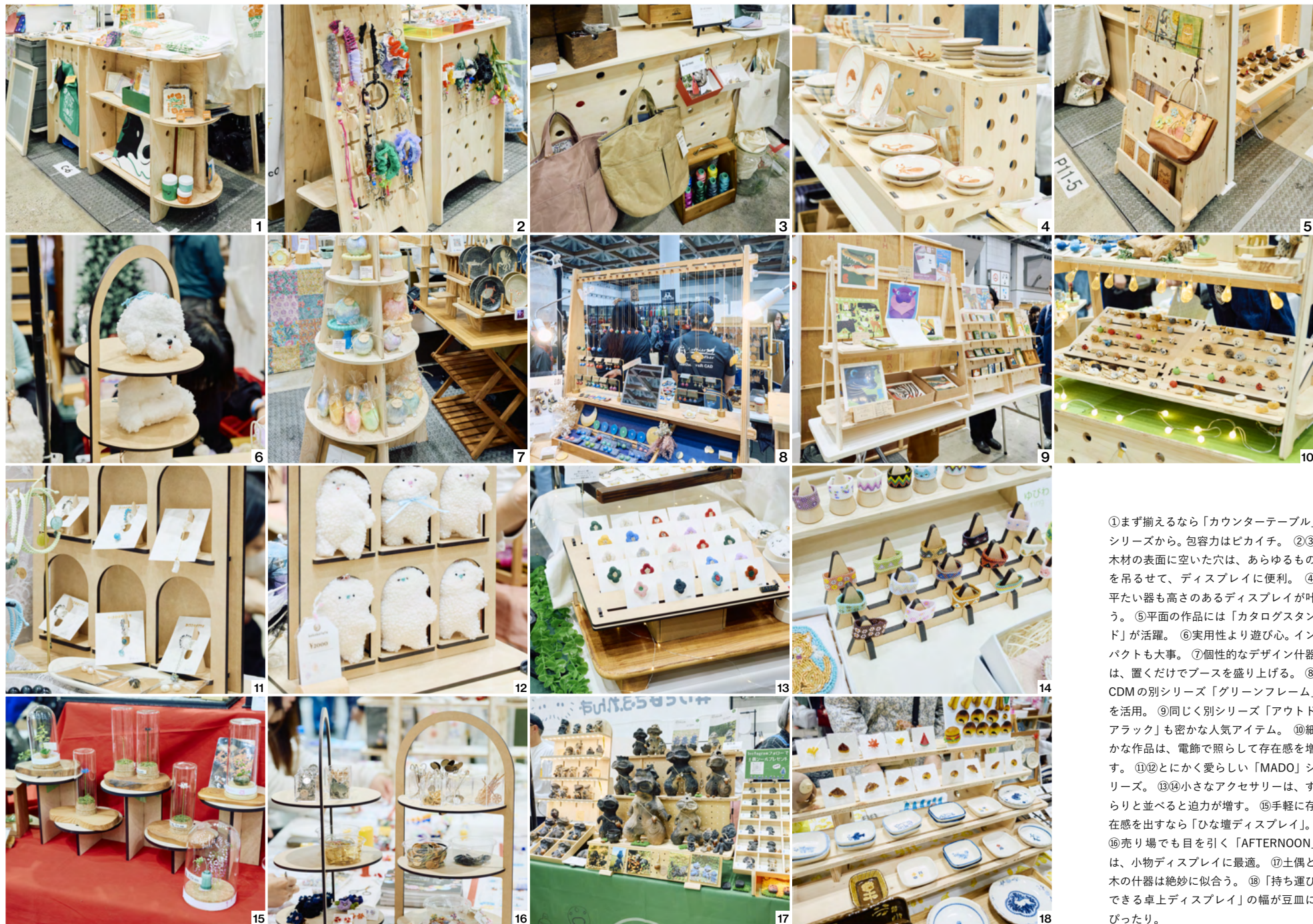
いかに印象的な売り場をつくるかも、マルシェの肝。什器をペイントするプロがいる。「美しいペイントのコツは、下地の木にやすりがけをしっかりとすること、塗装用の絵の具は何度か重ねて塗ること。こうすることで発色良く、初心者でも均一な仕上がりになります。組み立て式の什器の場合は、部品と部品が重なる部分はあえて塗らないようにするのも、小さなコツ。マルシェの空気をイメージしながらペイントし、実際の現場に什器を置いたとき、イメージとびたりと合致したときの嬉しさは格別です」。



使用したCDMの什器 置くだけで使えるカウンターフレーム / 持ち運びできるカウンターテーブルM / 木製A看板 70cm (片面十字穴)

みんなの使い方

組み立て簡単で軽やか、何よりシンプルなデザインの余白がCDMの什器の魅力。全国の会場で見つけた、みんなの思い思いの使い方をご紹介します。



①まず揃えるなら「カウンターテーブル」シリーズから。包容力はピカイチ。②③木材の表面に空いた穴は、あらゆるものを吊るせて、ディスプレイに便利。④平たい器も高さのあるディスプレイが叶う。⑤平面の作品には「カタログスタンド」が活躍。⑥実用性より遊び心。インパクトも大事。⑦個性的なデザイン什器は、置くだけでブースを盛り上げる。⑧CDMの別シリーズ「グリーンフレーム」を活用。⑨同じく別シリーズ「アウトドアラック」も密かな人気アイテム。⑩細かな作品は、電飾で照らして存在感を増す。⑪⑫とにかく愛らしい「MADO」シリーズ。⑬⑭小さなアクセサリーは、ずらりと並べると迫力が増す。⑮手軽に存在感を出すなら「ひな壇ディスプレイ」。⑯売り場でも目を引く「AFTERNOON」は、小物ディスプレイに最適。⑰土偶と木の什器は絶妙に似合う。⑱「持ち運びできる卓上ディスプレイ」の幅が豆皿にぴったり。

偏愛マルシェ

古物を並べる



14 使用したCDMの仕器 持ち運びできる卓上ディスプレイ (20cm×3 段) / 持ち運びできるカウンターディスプレイテーブル



📷 mikiji.tv

グラフィックデザイナー / 古物蒐集家。古物やC級スーパー、世界の民芸品などの蒐集を行う。貴重な古物は色焼けや汚れを防ぐため丁寧に保管する一方で、眺める楽しみも味わうため、飾る場所としまふ場所をそれぞれに設けて管理する。

穴という穴に掛けて 「ポーチの壁」を作る

「登山をはじめてパッキングの技術を習得し、日常でも取り入れるようになったのを機にポーチの魅力にのめり込みました。ノートPC、筆記用具、リップクリームやモバイルバッテリーなど、日頃持ち歩くものを大きさ・種類・使う頻度によりポーチで仕分けています。気に入っているのはライム形のポーチ(写真右上の青いメッシュ袋の中)。特徴的なかたちと、何より“ライムを持ち歩く”という状況が面白くて好きです。選ぶ基準は素材美とサイズの豊富さ。特にアウトドアブランドのものは防水、速乾、軽量などの機能性があり、比較的シンプルなデザインだからこそ、素材の個性が際立っているところに惹かれます。ふだんはまとめて大きめのポーチに収納していますが、こうして壁に掛けると迫力があっていいですね。ポーチ集めの奥深さは、理想のサイズが諦めず探せば必ず見つかり、すぐに使って検証できること。だからポーチ探しの旅はまだ続きます。いつか中古ポーチショップを開くのも面白いかもしれませんね」

根本真路

@shinjinem

グラフィックデザイナー。本誌のアートディレクションとデザインを手がける。暮らしているうちに自然発生的に集まってきたポーチは、仕様上ラフに扱えるものなので、ガサツと気兼ねなくしまっておける保管のしやすさもコレクションに向く。

小袋を並べる



看板の十字穴にS字フックを通し、ポーチを掛ける。引っ掛けやすいちょっとしたツマミがあるのもアウトドアブランドのポーチの良さ



立て看板下部のパーツの突起に、レコードの下面がうまくフィット。しっかりホールドされて、レコードスタンドに早変わり



同じに見えてすべて違う

蒐集の狂気を展示

「すべてビートルズの『Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band』のレコードですが、それぞれプレスされた国や時期が違います。ビートルズは音楽史上、いちばん売れたアーティスト。そのレコードは世界中でプレスされているわけですが、不思議なことに音源は同じでも、つくられた国や工場が違えば音も違うのです。特にこのアルバムは全世界で3200万枚以上売れた代物で、プレスのバリエーションが豊富。レコードだけでも755種類存在するといわれています。このプレスはどういう音で鳴るんだろうと、興味の赴くまま蒐集を続けていたら、いつの間に枚数が増えました。ドイツ盤は落ち着いていてきめ細やか、インド盤はアタリとハズレの振

れ幅がすごいなど、どこなくお国柄が表れるのも面白さ。同じアーティストの同じアルバムを50枚近く持っているなんて周りから見れば狂気かもしれませんが、僕にとってはひとつひとつが違うから蒐集がやめられません。ここまできたらバリエーションを揃え、これらの違いを聴き比べる会をいつか開催してみたいですが……需要があるかはわかりません(笑)」

鈴木智昭

@spicysuzuki

システムエンジニアを経てwebサイトやwebアプリのプロデューサーに。幼い頃の父親の影響がきっかけでレコードに目覚め、自宅に1000枚近くを所有する。意外とかさばるレコードは、家族の理解を得ることと、保管スペースの確保が目下の悩み。

使用したCDMの仕様 木製A看板 70cm(両面丸穴) / 木製A看板 160cm(片面十字穴) / 持ち運びできるカタログスタンド / 木製A看板用カスタムパーツ(十字穴用) / スーツケースに入る卓上パネルスタンド

スニーカーを並べる

90年代カルチャーへの 夢と憧れを棚にのせて

「スニーカー業界において歴史的な1995年の『エアマックス95』の熱狂を大学生のときに体感しました。初期モデルのイエローグラデが高騰する中、僕はサードデリバリーのレッドグラデを購入し、そこからスニーカーに取り憑かれました。今回並べたのは、スニーカーにハマるきっかけになった『NIKE』のシューズです。加えてその多くは音楽やスケートボード、ファッションブランドといった別の価値観とのコラボレーションから生まれたものを選んでいきます。『NIKE』の好きなところは、異業種と積極的にコラボする姿勢。それは運動靴であり、カルチャーでもある。機能美と造形美の共存こそ魅力であって、スポーツを主眼に置きながら、美術品のようにさえ感じる佇まいに飽きない魅力を感じています。変わらないアナログな美しさを保ちながら、機能はアップデートする。古いものも新しいものもイケてるので蒐集が忙しいいったらありません。箱に入れて収納すると、自分がなにを持っていてどこに置いてあるかを忘れるというストレスフルな状況に陥るので、本当はこんな風に見せる収納ができれば理想ですね。いつか海沿いにコーヒーの飲める本屋さんを開きたいと考えていて、そこでスニーカーが売れたらと夢想着います」

古川誠

@sentimentalpunks

編集者。雑誌『メトロミニッツ』の編集長を務める。スニーカーとTシャツの蒐集が趣味でオリジナルブランドを立ち上げるほど。自宅では4.5畳の一角をスニーカー部屋にするもののいっばいで、置き場所には常に困っている。



「ツリー型ディスプレイ」は各段をバラバラにしても使用でき、コンパクトなスニーカースタンドに。28cmのスニーカーがぴったりおさまる



『あぶない刑事』を並べる

推しの姿を 360 度から拝める喜び

「ドラマ『あぶない刑事』30 周年を記念してつくられた映画『さらばあぶない刑事』の公開時に、円盤や関連グッズが多く出回り、蒐集がはじまりました。これはコレクションのほんの一部です。お気に入りにはアクリルスタンド。がっしりしたダンディーな館ひろしさんと、足をクロスしたセクシーな柴田恭兵さん、それぞれの違いがよく表れているところが良いですね。『あぶない刑事』という作品は、ダンディーとセクシーで成り立っていますから。コレクションは自分のためだけでなく、他者とコミュニケーションする手段になり得るところに面白さがあります。今回もディスプレイしたことで、こう並べるといいんだなという新たな気づきがありました。冷静と情熱の間を行き来するのが、ものを集める醍醐味。これから具体的な目標や数にとらわれず、かたちあるものも、なきものもあまねく蒐集していきたいです」

Lee Sareee

会社員。根っからのコレクターで『あぶない刑事』のほか『ルパン三世』や羽生結弦ファングッズなど、多種多様なアイテムを広く深く蒐集する。保存の悩みは、どう魅せるか。そのものの魅力を引き出す飾り方を模索し、定期的にディスプレイを並び替え、手入れを怠らない。



ツリー型ディスプレイをフル活用。円錐型は、本やDVDを立てかけののにちょうど良く、かつ 360 度から推しが拝める



石を収納する小箱(私物)がピアスディスプレイにジャストフィット。溝部分が箱を支え、うっかり滑り落ちる心配もない

漂着物を並べる

石とはロマン 夢を楽しみディスプレイ

「幼い頃からその辺に落ちている石を拾うのが好きで、大人になった今でも変わらず、旅先や海岸で気に入ったものを拾い集めてきました。石以外に、近くで見つけたかたちのいい枝やプラスチック、シーグラスなどのあらゆる漂着物も。つい集めてしまうのは、それがどこから来て、誰に使われていたのかを思い描く楽しみがあるからです。たとえばシーグラスなら『陽気な船乗りが飲んだサイダーの破片かな』『海賊が戦うときに割れたビールの瓶かな』と夢想するのが楽しくて。きっと実際はただ海に捨てられているだけのものなのでしょうけど、想像は

したもの勝ち。そこに隠されているかもしれないストーリーにロマンを感じ、なにげなく眺め思いを馳せては非日常気分になっています。石が好きそうな人がいたら嬉々として見せ、語り合いたい気持ちは常にありますが、興味を持ってくれるのはひと握り。いつか同志を集め、石談義がしたいですね」

新里碧 @nisssato

イラストレーター。イラストレーションを中心に、取材漫画、アートディレクションなどを幅広く手がける。旅と仕事が趣味で、石のコレクションも旅で集めたもの。石は重さだけが玉にきずで、丈夫で懐の深い什器を探している。



カウンターテーブルの穴に「デザインボードフック」(カインズで別売り)を取り付け、側面も小箱をのせる収納スペースとして活用

菓子缶を並べる

甘く、愛らしい
小さな缶に詰まった
つくり手の想い

「菓子缶の魅力のひとつは、そこに菓子メーカーのデザインの変遷が見えること。色味や造形から、その時代になにを思いつくたのか、意匠を想像する楽しさがあります。集めはじめたのは2019年頃で、眺めていると当時の流行から遡り思い返すことができるんです。最近ではエンボス加工が施されていたり、アプリケを使っていたりとリッチな加工が増えてきた印象。見るだけでなく触ることで楽しめる缶がトレンドです。中身のお菓子以上に缶が魅力的なので、中身を食べ忘れて、開けた缶から数年前のチョコレートが出てくることなんかもあります。ふとした瞬間に目に入り楽しめる環境に



あってこそ菓子缶なので、今までは手近な場所にタワーのように積み上げていましたが、そろそろ高さの限界が。こうしてひとつの棚に並べると、改めて美しいと感じますし、デザインの細部まで堪能できて嬉しいですね」

重見果歩

面白法人カヤックのアートディレクター。美大学生時代、パッケージの授業があり勉強の一環で集めはじめたのをきっかけに菓子缶にハマる。かさばる缶や型崩れしやすい紙箱をいかに美しく、かわいく並べて保管するかが課題。

マグネットを並べる



マグネットはメモリー 旅の思い出を一覧に

「冷蔵庫をかわいくデコりたいという素朴な動機からはじまったマグネット蒐集。出かけた場所、自分の目で見たもの食べたもの、体験したことになんだマグネットを集めています。土産物屋の定番であるマグネットはどこでも売っていて手に入れやすく、見返せばそのときの思い出が蘇る、その日だけのUSBメモリーだと思っています。しかも見た目が全部ちがってかわいい。集めて楽しいUSBです。手頃だからお土産でもリクエストしやすくて、ますます増えてきました。冷蔵庫や玄関ドアにくっつけておくと日々目に入るので、写真以上に記憶を蘇らせてくれる装置です。手に入れたマグネットはその日のうちにチェキで撮り、ひと言日記を添えてアルバムに収納していて、気づけばもう3冊目も終わりかけ。時折見返してはにんまりしています。60歳ぐらいになったらマグネットで個展を開くのがプチドリームです」

りこまる

会社員。キャラクターグッズを扱う会社で働く。目下の悩みは、マグネットを貼っておける磁力が自宅に圧倒的に足りないこと。冷蔵庫やドアはとうに満員で、ミニ黒板やホワイトボードを地道に買い集め、居場所を確保している。



〔左〕カウンターフレームの平面にマグネットシートを貼り付け、ディスプレイ

〔右〕卓上ディスプレイの縁にチェキを差して収める

使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターディスプレイテーブル (半円) / AFTERNOON (マルシェ什器) /

ひな壇ディスプレイ 5段 (マルシェ什器)

使用したCDMの什器 置くだけで使えるカウンターフレーム / 持ち運びできる卓上ディスプレイ (10cm×4段) /

ひな壇ディスプレイ 5段 (マルシェ什器) / 持ち運びできるカウンターテーブルM



「卓上ディスプレイシリーズ」は、小さきもののお立ち台として最適。吊るしたり立てかけたり、平面的なグッズに光を当てる

並べる タイポグラフィを

文字の造形を自由に描く 白い紙のような什器

「思春期の頃からギャル文字の練習にノートを一冊費やしたり、友達に頼まれて自分が参加していない交換ノートの表紙をデコったりしていましたが、大学生の頃SNSを通じてタイポグラフィ作品に触れ、文字が持つ世界に感銘を受けたのがものづくりをはじめたきっかけです。文字には決まった骨格がありますが、線の太さやリズムがわずかに変わるだけで、全く別の人格が宿るのがタイポグラフィの醍醐味。ただ『文字』である以上、読めなければ意味がないので、可読性と独自性の絶妙なバランスが力の見せ所です。トートバッグにTシャツ、キャップ、キーホルダーにシール等、グッズは基本的に自分が欲しいもの、造形としての文字の面白さが表現できるものをつくっています。サイズもかたちもさまざまなので、並べる什器の汎用性も大事ですね。『現実逃避』『不労所得』など、共感のツボを突いた文字を、これからも描いていきたいです」

ザキノノ

@azusa_nozaki

デザイナー。やわらかくてポップな雰囲気の文字作品を、SNSなどで継続的に発表している。コレクションでありながら商品なので、いかにシワをつけず、劣化させずにしまい続けられるかが重要。特に布製品の扱いが難しい。

使用したCDMの什器 木製A型スリムディスプレイ / HAIKEI Aタイプ(マルシェ什器) / HAIKEI Bタイプ(マルシェ什器) / ピアスディスプレイ A4(棚タイプ)

マフィンというより野菜 畑そのままの展示場

「甘い焼き菓子ではなく“野菜のマフィン”をつくるようになったきっかけは、取材で訪ねた全国の農家さんの野菜を記録しておきたいと思ったから。読む記事と同じように食べる“生地”でも伝えられないかと、まっさらなマフィンに野菜を詰め込み、届けるようになりました。餃子にお好み焼き、包子。世界中で小麦粉と野菜は融合してきた歴史があるのだから、マフィンに合わない野菜はないと考えていて、特に好きなのはきゅうりのマフィン。はじめて食べたときの感動はいまだによく覚えています。焼き菓子はしっかり焼いてこそ成り立つものですが、その中でいかに“みずみずしく”仕上げるか。畑から生まれたそのま

まのような野菜の姿を映すことが密かな野望です。読みもの以上に誰でも気軽に手にとれ、ダイレクトに体に届け、野菜の魅力が伝わる。食べるメディアのようなものがつくれたら面白いなと思っています」

瀬谷薫子

@seyakaoruko

編集者、書き手。本誌の編集を務めるかたわら週末は農家の野菜を使ったマフィンを焼く活動「doyoubi」を主宰する。外のイベントで販売の際、小さなマフィンをいかに迫力ある見た目にディスプレイするか、試行錯誤の途中。

傾斜台の横幅にマフィン型をはめ込んでみたら、意外にもフィット。多少バランス感覚は必要だが、見応えあるディスプレイに



マフィンを並べる



使用したCDMの什器 持ち運びできるカウンターディスプレイテーブル(半円) / 簡単に組み立てられる傾斜台 / ひな段ディスプレイ 5段(マルシェ仕様)



“マルシェのいろは”がわかる はじめて出店ガイド

いざ出店するなら、なにからはじめて、なにが必要？
意外と知らないマルシェのいろはを、
数々のマルシェに出てきたベテランクリエイターに聞きました。
これを読めば、はじめの一歩がわかります。

自分らしいやり方で マルシェを乗りこなす

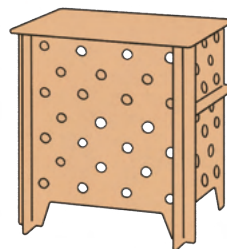
ものを売る。シンプルなようでそこにはさまざまな手段があり、出店の仕方は十人十色です。会場選びに什器選び、見せ方と売り方の検討。他人の芝生も気になるけれど、大切なのは「自分の心地いいやり方」を見つけることだとクリエイターは口を揃えます。1度きりより2度3度、回数を重ねて失敗と成功の経験を積むうち

に、自分に合う会場がわかり、さらには売りたいもののイメージも明確になると。継続は力なりです。

そももうひとつ大切なのは「売る」だけを目的にしないこと。マルシェとは、自分が好きなものを介して人と繋がる機会。戦略よりも楽しむことを軸に置けば、肩の力を抜いて向き合えるようになるのかもしれませんが。めざすは自分らしいマルシェづくり。このガイドがそのための地図になりますように。

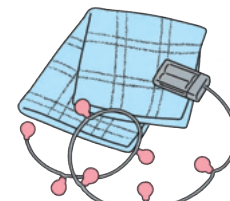
これさえあれば！ 必須アイテムリスト

販売ジャンルにかかわらず、マルシェに必要な基本のアイテム9つをご紹介します。最低限これらを揃えておけば安心です。回数を重ねながら足し引きし、自分に合うマルシェセットをつくっていきましょう。



什器

商品の陳列に不可欠な什器は、組み立てやすさが第一。女性ひとりでも手軽に持ち運べるCDMシリーズが便利。



布&ライト

売り場に個性を出すため、什器を飾る布やライトも必要。大勢の出店者がいる会場では、目を引く装飾を。



ラッピング資材

ラッピング資材も接客の一部。商品を包む機能性だけでなく、お店の色を表現するデザインも重視して。



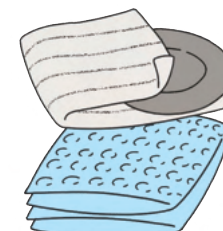
文房具

貼って剥がせる養生テープは設営に便利。筆記具はお客様の顔と名前を記録するために常備しておくという声も。



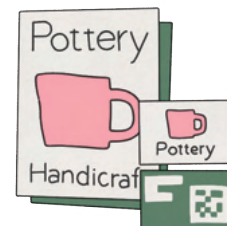
ゴミ袋(持ち手付き)

ゴミは基本的に各自の持ち帰り。机の足や椅子の背に引っ掛けられる持ち手付きのゴミ袋は、場所をとらず便利。



梱包材

商品の梱包だけでなく、配送の緩衝材やディスプレイの高増しにも、プチプチはあると頼りになります。



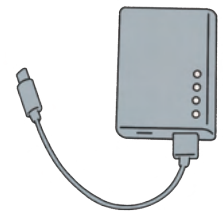
ショップカード&チラシ

大勢の人が集う会場では、記憶に残ることが大事。SNSアカウントがのったショップカードやチラシでアピール。



会計グッズ

現金とキャッシュレス、どちらにも対応しているより親切。現金会計には、電卓と小銭受けも忘れずに。



モバイルバッテリー

スマートフォンに決済端末、装飾のライトなど電気の消耗が意外と多いので、充電用バッテリーは欠かせません。

～3ヶ月前

出店が確定したら、遠方の場合まず手配したいのが交通手段と宿泊先。早い方がお得にとれる場合もあります。出店日だけでなく、前後のスケジュールも確保しておけると安心です。

Check List

	出店申し込み
	宿泊先 / 交通手段の手配

～2ヶ月前

なにを販売するか、そのためにどんなディスプレイにするかを計画してから商品の製作に入るとスムーズです。ブースは土台になる什器を決めてから、細かな装飾品を探して。

Check List

	売り場のレイアウト決め
	商品製作スタート

～1ヶ月前

マルシェの情報が公開されたら、お客様に日程を空けてもらうためにも早めに告知。納品までに時間のかかる資材や機材は余裕をもって発注しておきましょう。

Check List

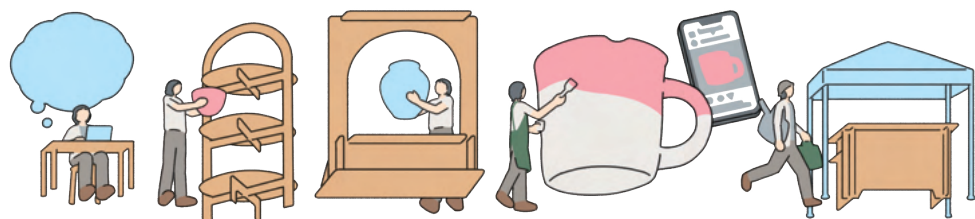
	SNSでの告知スタート
	ショップカードや資材の発注
	電子決済端末の申込み

4週間前～当日

追加製作の必要がないか、商品ラインナップを最終チェック。持ちものの点検はp.27を参考に。すべてが整ったら、前日は早めに休むこと。何よりも体調管理が第一です。

Check List

	商品の最終チェック
	アイテムの点検、補充



こんなときどうする？

Q & A

ノウハウだけじゃない、出店する上で心得ておきたい大事なことを先輩出店者に聞きました。実体験の詰まったアドバイスはきっと参考になるはず。

はじめての会場はどこにする？

A 机や椅子がレンタルできて、準備の負担が少ない会場を選ぶのがラク。天気に左右されない屋内だとより安心です。慣れてきたら小さきままな規模のマルシェに出て、自分に合うサイズ感を見つけていって。

売り上げ目標は？

A 初回は数千円～1万円程度。回数を重ねるうちに固定客がつき、少しずつ売り上げを伸ばしていくことを目標にします。ただ、マルシェの本質的な目的は、売り上げよりもリアルな場でのお客様との関わり。お金以上の価値がそこにあります。

出店頻度はどのくらいがベスト？

A はじめのうちはコンスタントに出店経験を積んだ方がノウハウが溜まり、自分に合う出店スタイルがつかめていきます。商品の余剰在庫を増やさないためにも、2ヶ月に一度程度は出店を重ねられるとベター。

接客のコツは？

A うまいトークができなくても、相手の目を見て、笑顔で接することが大事。一度来てくれた方の顔や名前は記録しておく、もらった声を商品づくりに生かすなど、地道な努力が次に繋がります。

商品のラインナップはどのくらい？

A 開催場所やマルシェのコンセプトによって客層が変わり、売れ筋も変わります。回数を重ねるうちに主力商品が生まれてきたら、それをメインに据え、あとは会場に合わせて適宜アレンジするなど、固定と変動のバランスをとるのも一案。

会場ではどうふるまうべき？

A 接客以外に、意外と大事なのが他の出店者とのコミュニケーション。周囲との交流はもちろん、気になるブースには挨拶回りを。売るだけでなく、他店との繋がりや、情報収集もマルシェの醍醐味です。



マルシェ当日に密着

リアルタイム シミュレーション

いよいよ本番。今回は 11 時開場のマルシェに合わせた、当日のタイムスケジュールをシミュレーションします。ここまでイメージできたら準備万端。本番を待つのみです。

5:30

起床



慌てて準備することがないよう、遅くとも出発の 1 時間前には起床して。身支度は動きやすい格好で。屋外の場合には、防寒や日焼け対策も忘れずに。荷物を最終点検したら、万一のことを考え、交通情報もチェックしておきましょう。

7:30

出発



荷物が多ければ車で。渋滞の可能性を考慮して、ナビの目安より 1 時間は余裕をもって出発できると安心。荷物は事前に会場へ送り、当日は身軽に電車やバスで行くパターンも。公共交通機関は遅れがちなので、タクシーを選ぶという意見もありました。

8:00

食事の調達



朝食や昼食は道中のコンビニで調達。いざはじまると外へ買いに行く時間がとれないので、事前に準備しておきましょう。おにぎりやサンドイッチなど、作業の合間に片手で食べられる軽食がおすすめ。会場に飲食ブースがある場合、挨拶も兼ねてそこを利用するという声も。

9:00

会場到着、設営



開場の 2 時間～1 時間半前には到着。ブースを組み立てていきます。会場の雰囲気や動線、ライティングなど、実際の現場の雰囲気を見ながら微調整が必要なので、設営時間にも余裕をもって。お客様目線で俯瞰して見ることも忘れずに。

9:30

会場の見回り、挨拶



設営が落ち着いたら会場の見回りに。周りの出店者はもちろん、会場の主催者や知人の出店者にも挨拶を。お客様だけでなく、同業の仲間と繋がることもマルシェの醍醐味。他店のブースを見ることは刺激になります。

10:00

SNS に投稿



売り場の風景を撮影し、SNS にアップ。広い会場では、事前に自分の位置を知らせておくと、お客様がスムーズに足を運べます。臨場感のある投稿は、行こうか迷っているフォロワーさんへの後押しに繋がることも。

10:30

休憩



開場してからはノンストップで店番が続くので、その前に小休憩を。特にひとりで出店する場合、売り場を離れられなくなるため、事前に食事を取り、トイレ休憩をしっかり済ませておくことも大事です。

11:00

開場



接客販売のかたわら、ディスプレイはこまめにチェック。商品が減ってきたら陳列を変えるなど、経過に合わせて手を入れます。マルシェの楽しみはなんといってもお客様との交流。売ることばかりでなく、会話する時間も楽しんで。

17:30

撤収準備



閉場時間が近づいてきたら、できることから撤収準備をはじめていきます。商品の在庫チェックやお金の計算、ゴミの分別、在庫分の梱包など、販売ブースは残しつつ、ある程度作業を進めておくと、終了後がスムーズです。

18:30

閉場、撤収



「立つ跡跡を濁さず」がマナー。持ち込んだものの撤収はもちろん、主催者への感謝を込めて、ゴミひとつ残さずぴかぴかの状態で撤収できたら理想です。他の出店者さんにお疲れ様の声を忘れずにかけ、会場を後にします。

協力

ク リ ー マ
Creema

日本最大のハンドメイドマーケットプレイス「Creema」を軸に、ネットショップ開設サービス「InFRAME」、クラウドファンディング「Creema SPRINGS」など、多彩なクリエイターエンパワーメント事業を展開。また、日本最大級・クリエイターの祭典「HandMade In Japan Fes」(東京ビッグサイト)をはじめとした各種クラフトイベントを全国各地で開催する。

www.creema.jp

“お店”はじめました

マルシェの先にめざすもの

「マルシェをつくる」の先にある「お店をつくる」という選択。
CDMシリーズの什器を活用し、自分の売り場をつくり上げた二人に、
お店とはどんな場所か、そこで売ることの醍醐味を聞きました。



お店の顔となるメインの棚二つがCDMシリーズ。日々生まれていく多種多様なアイテムを、柔軟に受け止めてくれる。平面的なラグを吊るしたり掛けたりして立体的に見せられる「木製A型スリムディスプレイ」は特に便利。ポップアップ出店時にも重宝している

Pontre Studio
東京都小平市学園西町 1-20-16 1F
12:00 ~ 17:00
営業日はInstagramを要確認
@pontre.studio



創作意欲が生まれる場所

Pontre Studio

ラグマットにフラワーベース、アクセサリートレイ、アクリルやエコストーンなどさまざまな素材を使い、カラフルで愉しげな雑貨をつくる「Pontre Studio」のmikaさん。「つくりたいものがまだまだたくさんあって、時間が足りない」というコメントも、ここに並ぶにぎやかな品々を見ると頷けます。独学ではじめてタフティングのラグづくりが人気を集め、マルシェやポップアップでの販売を経て2025年10月、故郷の小平市に念願の実店舗をオープン。つく

り続けたい、創作意欲の受け皿になったのが、今の工房兼店舗でした。「店を開いてみて感じたのは、既存の在庫が活かせることのありがたさです。マルシェは一度終わると次の機会まで商品が眠ってしまいがちですが、お店ではそれらが店頭に並べられます。それに、つくったそばから手にとってもらえるスムーズさも、すごいことだと実感しています」。ものを売るだけなら、実店舗よりオンラインの方が効率的です。けれど通りがかりのおばあちゃんがふと手にとり、ラグを買っていくことがあるように、リアルだからこそその予期せぬ出会いがあるのが店の醍醐味。人の反応が目に見える場所があることは、商売をする以前に、ものをつくり続けるモチベーションに繋がっているようです。

「CDMの什器は、外での出店の際にもこのまま運んで使っています。どんな商品もディスプレイしやすい、懐の深さを頼りにしています」。什器もまた、自由な創作を支える受け皿。この場所には、今後も新しいアイテムが生まれていく予感がありました。

自分の感性を表明する場所

decoboco store

ドアを開けるとそこは宝の山。端正な家具から愛嬌ある動物の置き物まで、さまざまな古物が集まる「decoboco store」は、店主・石川さんのユニークな動機からはじまりました。「写真を撮るのが好きで、蚤の市や骨董市で自分が撮りたいものを集めていました。次第にものが増え、誰かと共有する場所が必要になって。自分が撮った写真をその紹介に生かsetらいいと思ったんです」。ものが好きで、撮影が好き。二つを掛け合わせた先にあったのが「店を営む」という生業だったのです。そして、その空間に並ぶのがCDMの什器。実は発売初期から愛用しているというヘビーユーザーです。「はじめはヴィンテージの棚に古物を並べていました。ただそれだとあまりにも棚と古物が溶け合ってしまう。もう少しいい意味での違和感が生まれてほしいと探し、ピンときたのがCDMの什器。合板の簡素な佇まいなのに、洗練されている。30年後にこれを見たら古物として仕入れたくなるだろう、普遍的なデザインに惹かれたんです」。

たくさんの好きなものが詰まったこの空間に、人が足を運んでくれることには、いまだに新鮮な驚きと喜びがあるといます。「自分が良いと思ったものを買ってくれる人がいると、感覚が間違っていないんだと肯定されたような気持ちになって。この仕事を見つけられてよかったと思います」。人はなぜマルシェをつくり、店をつくるのか。石川さんの言葉には、その答えが詰まっているように感じました。



什器にはウレタン塗装を施し、古物にもなじむよう、落ち着いた色合いに。ミニマルなデザインは、色とりどりの古物をフラットに、やわらかく受け止める。あえて余白を残して並べることで、ひとつひとつのものが纏う空気も引き立つ



decoboco store

東京都福生市熊川 994

@decoboco_store

(営業日・時間はInstagramを要確認)

マルシェをつくる 什器カタログ

本誌にのせた陳列は

「CAINZ DIY MARKET」の什器でつくられています。

かたちも大きさも多種多様な 40 通り。

売りたいものに合う相棒がきっと見つかるはず。



持ち運びできる
カウンターテーブルS

立ったまま作業しやすい高さの
テーブル。幅 60cm の S サイズ
は小規模な会場など、コンパク
トなブースづくりに便利。

幅 60×奥行 40.5×高さ 79.5 (cm)
¥6,800 (税込)



持ち運びできる
カウンターテーブルM

立ったまま作業しやすい高さの
テーブル。幅 90cm の M サイズ
はもっともスタンダードなサイ
ズで、一般的なマルシェのブ
ースに合うサイズ感。

幅 90×奥行 40.5×高さ 79.5 (cm)
¥9,800 (税込)



持ち運びできる
カウンターテーブルL

立ったまま作業しやすい高さの
テーブル。幅 120cm の Lサイ
ズは大きなものの陳列や広いブ
ースづくりに。

幅 120×奥行 40.5×高さ 79.5 (cm)
¥12,800 (税込)



持ち運びできる卓上
ディスプレイ (10cm×4 段)

卓上で使える小物用ディスプレ
イ。10cm 間隔で棚が 4 段連なる。
片面には値札やカードが立て掛
けられる溝が彫られている。

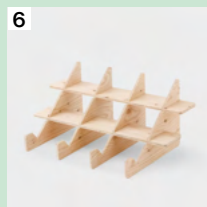
幅 65×奥行 32.8×高さ 26.2 (cm)
¥3,980 (税込)



持ち運びできる卓上
ディスプレイ (20cm×3 段)

卓上で使える小物用ディスプレ
イ。20cm 間隔で棚が 3 段連なる。
片面には値札やカードが立て
掛けられる溝が彫られている。

幅 65×奥行 38.4×高さ 51.2 (cm)
¥3,980 (税込)



簡単に組み立てられる
傾斜台

収納ボックスを立て掛ける用途
の傾斜台。ボックス以外に小物
の陳列台としても使え、高さの
あるディスプレイが叶う。

幅 74×奥行 43×高さ 31.7 (cm)
¥3,980 (税込)



スツツケースに入る
卓上パネルスタンド

幅 42cm× 奥行 9cm の棚が 12cm
間隔で 4 段連なる。片面には値札
やカード型のものが立てられる
溝が彫られている。

幅 42×奥行 16.4×高さ 63.9 (cm)
¥3,980 (税込)



置くだけで使える
カウンターフレーム

テーブルの上に置くだけでカウ
ンターが作れる。「持ち運びで
使えるカウンターテーブル M」の天
板に差し替えて使用可能。

幅 90.5×奥行 40.5×高さ 116.2 (cm)
¥12,800 (税込)



簡単に組み立てられる
ツリー型ディスプレイ

パーツを積み上げて使う、タ
ワー状のディスプレイ。バラし
ても使用可能。360 度にものが
並べられる。

幅 62.1×奥行 62.1×高さ 146.4 (cm)
¥9,800 (税込)



扇形コーナーディスプレイ

四半円型のディスプレイ。側面
板や仕切り板に肉抜き加工がさ
れているので、商品に光が当て
られると共に、軽やかで持ち運
びがしやすい。

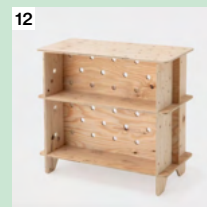
幅 64.7×奥行 64.7×高さ 135 (cm)
¥14,800 (税込)



持ち運びできるカウンター
ディスプレイテーブル(半円)

立ったままでも作業がしやす
く、前面と背面に商品をディス
プレイできるテーブル。片方
の面が半円になっている。

幅 85×奥行 40.5×高さ 80 (cm)
¥12,800 (税込)



持ち運びできるカウンター
ディスプレイテーブル(四角)

立ったままでも作業がしやす
く、前面と背面に商品をディス
プレイできるテーブル。四角形
のデザイン。

幅 85×奥行 40.5×高さ 80 (cm)
¥12,800 (税込)



木製 A 看板 70cm
(片面十字穴)

高さ 70cm の A 看板。片面には収
納に便利な十字穴があしらわれ
ており、もう片面はフラット。A2
のポスター 1 枚が飾れるサイズ。

幅 42×奥行 32.8×高さ 79.2 (cm)
¥4,980 (税込)



木製 A 看板 160cm
(片面十字穴)

高さ 160cm の A 看板。片面には収
納に便利な十字穴があしらわれ
ており、もう片面はフラット。A2
のポスター 2 枚分が飾れるサイ
ズ。

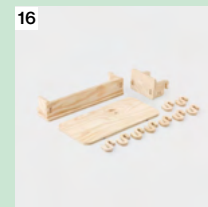
幅 42×奥行 45.2×高さ 156.1 (cm)
¥9,800 (税込)



木製 A 看板 70cm
(両面丸穴)

高さ 70cm の A 看板。両面に丸穴
があしらわれていて、収納の用
途が広がる。A2 のポスター 1 枚
が飾れるサイズ。

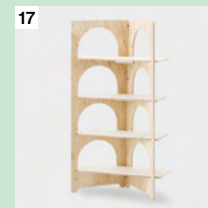
幅 42×奥行 32.8×高さ 79.2 (cm)
¥4,980 (税込)



木製 A 看板用
カスタムパーツ (十字穴用)

「木製 A 看板 (片面十字穴) 70/
160cm」「スツツケースに入る卓
上パネルスタンド」と組み合わ
せて使えるパーツ

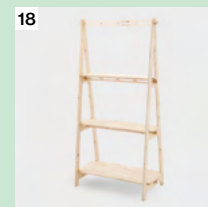
¥2,980 (税込)



折りたたみできる
木製ディスプレイ

棚板を差し込むだけで組み立
てられる、4 段のディスプレイ。収
納力抜群で汎用性の高いデザ
イン。

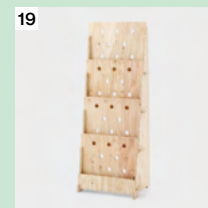
幅 80.7×奥行 36.7×高さ 146.8 (cm)
14,800 (税込)



木製 A 型
スリムディスプレイ

高さ 170cm の A 型 ディスプレ
イ。最上部と各棚板の下部にフ
ックをかけられる溝があり、真
ん中二段の棚板を抜いても使
える。

幅 86×奥行 49.7×高さ 170 (cm)
¥17,800 (税込)



持ち運びできる
カタログスタンド

冊子の収納に便利なスタンド。
各段に紐を通す丸穴がついて
いて、落下防止にも。コンパクト
にたためて持ち運びしやすい。

幅 50×奥行 31.8×高さ 121.6 (cm)
¥9,800 (税込)



簡単に組み立てられる
ピクニックテーブル

チェアとテーブルが一体とな
った木製のピクニックテーブル。
キャンプ等レジャーでの使用
のほか、マルシェのディスプレ
イにも使える。

幅 110×奥行 88×高さ 69.6 座面高 36 (cm)
¥19,800 (税込)

小物を飾る 卓上ディスプレイ シリーズ

アクセサリや文具、
マスコット等々、小さなものを並べるには
卓上シリーズがおすすめ。
シンデレラフィットする什器を見つけてみて。



1 **ウォッチディスプレイ**
腕時計やブレスレット等、アクセサリを陳列するのにぴったりのスタンド。
幅 26×奥行 7.5×高さ 13.5 (cm)
¥2,480 (税込)



2 **リングディスプレイ 3x3**
リング(指輪)用に特化したディスプレイ台。縦3×横3の9個のリングがディスプレイできる。
幅 12.4×奥行 8.8×高さ 5.4 (cm)
¥1,780 (税込)



3 **リングディスプレイ 3x5**
リング(指輪)用に特化したディスプレイ台。縦3×横5の15個のリングがディスプレイできる。
幅 21.4×奥行 8.8×高さ 5.4 (cm)
¥1,980 (税込)



4 **ピアスディスプレイ A4 (溝タイプ)**
ピアス用のディスプレイ台。溝にピアスの台紙を差してディスプレイする。A4 サイズにたたくで収納できる。
幅 30×奥行 18.6×高さ 9.7 (cm)
¥2,980 (税込)



5 **ピアスディスプレイ B4 (溝タイプ)**
ピアス用のディスプレイ台。溝にピアスの台紙を差してディスプレイする。B4 サイズにたたくで収納できる。
幅 36×奥行 23.1×高さ 11.9 (cm)
¥3,480 (税込)



6 **ピアスディスプレイ A4 (棚タイプ)**
ピアス用のディスプレイ台。棚板にピアスの台紙を立てかけてディスプレイする。A4 サイズにたたくで収納できる。
幅 28.5×奥行 17×高さ 8.8 (cm)
¥2,480 (税込)



7 **ピアスディスプレイ B4 (棚タイプ)**
ピアス用のディスプレイ台。棚板にピアスの台紙を立てかけてディスプレイする。B4 サイズにたたくで収納できる。
幅 36×奥行 22.9×高さ 12 (cm)
¥2,980 (税込)



8 **AFTERNOON (マルシェ什器)**
アフタヌーンティースタンドをモチーフにしたディスプレイ台。これひとつで売り場が華やかな雰囲気になる。
幅 26×奥行 23×高さ 48 (cm)
¥3,980 (税込)



9 **ひな壇ディスプレイ 5段 (マルシェ什器)**
直径 120mm の円形の台が 5 つ、2 種類の高さで配列されたディスプレイ台。小物の存在感あるディスプレイに。
幅 46×奥行 19×高さ 12.6 (cm)
¥3,480 (税込)



10 **ひな壇ディスプレイ 7段 (マルシェ什器)**
直径 120mm の円形の台が 7 つ、2 種類の高さで配列されたディスプレイ台。小物の存在感あるディスプレイに。
幅 63×奥行 19×高さ 12.6 (cm)
¥3,980 (税込)



11 **HAIKEI Aタイプ (マルシェ什器)**
アクセサリ用のディスプレイ台。ピアスフック(別売)を 11 個取り付けられ、小物やアクセサリの収納に使える。
幅 37.5×奥行 22×高さ 30 (cm)
¥2,980 (税込)



12 **HAIKEI Bタイプ (マルシェ什器)**
アクセサリ用のディスプレイ台。ピアスフック(別売)を 11 個取り付けられ、小物やアクセサリの収納に使える。
幅 32×奥行 22×高さ 30 (cm)
¥2,980 (税込)



13 **MIRROR Aタイプ (卓上ミラー)**
持ち運びできる卓上ミラー。アクセサリなどを販売する際、試着時の確認にも使える。
幅 16×奥行 27×高さ 34 (cm)
¥3,980 (税込)



14 **MIRROR Bタイプ (卓上ミラー)**
持ち運びできる卓上ミラー。アクセサリなどを販売する際、試着時の確認にも使える。
幅 14×奥行 17.6×高さ 35 (cm)
¥3,980 (税込)



15 **MADO 5窓 (マルシェ什器)**
縦長の窓が 2 つ、四角の窓が 3 つ付いたアクセサリ用ディスプレイ台。ユニークな見た目が売り場の雰囲気を盛り上げる。
幅 33×奥行 15×高さ 42.1 (cm)
¥4,780 (税込)



16 **MADO 6窓 (マルシェ什器)**
四角形の窓が 6 つ付いたアクセサリ用ディスプレイ台。ユニークな見た目が売り場の雰囲気を盛り上げる。
幅 33×奥行 15×高さ 42.1 (cm)
¥4,780 (税込)



17 **MADO 7窓 (マルシェ什器)**
縦長の窓が 4 つ、四角の窓が 3 つ付いたアクセサリ用ディスプレイ台。ユニークな見た目が売り場の雰囲気を盛り上げる。
幅 33×奥行 15×高さ 42.1 (cm)
¥4,780 (税込)



18 **MADO 8窓 (マルシェ什器)**
縦長の窓が 2 つ、四角の窓が 6 つ付いたアクセサリ用ディスプレイ台。ユニークな見た目が売り場の雰囲気を盛り上げる。
幅 33×奥行 15×高さ 42.1 (cm)
¥4,780 (税込)



19 **MADO 9窓 (マルシェ什器)**
四角形の窓が 9 つ付いたアクセサリ用ディスプレイ台。ユニークな見た目が売り場の雰囲気を盛り上げる。
幅 33×奥行 15×高さ 42.1 (cm)
¥4,780 (税込)



20 **フォトブース風ディスプレイ**
商品をディスプレイして撮影できる、フォトブース風のディスプレイ台。背景に布や紙を敷いてアレンジできる。
幅 45.5×奥行 27.1×高さ 37.6 (cm)
¥2,980 (税込)

アイテムの詳細と購入は
公式サイトから



編集後記

本誌に登場するさまざまなマルシェのづくり手を取材して感じたのは、そこに共通する創意工夫。それは、なくてもくらしは回るけれど、あることで日々の自分らしい彩りを添えるもの。まっさらな木の什器を飾り、思い思いの品を並べる行為には工夫が満ちていて、何よりそれをする人たちの顔が生き生きとしていて、「マルシェ」とはただの売り場ではない、個人が自分を表現するための場なのだと。デジタル全盛の今、あえてアナログなものをつくる理由がわかる気がしました。

CDMの什器にもまた、創意工夫の楽しみがあります。ボタンひとつで自宅に届く完成された家具とは違い、自分の手で組み立てるという手間があるからこそ、関わる楽しみが生まれ、愛着が宿る。「くらし」とはそうやってできていて、「DIY」とは、自分のくらしを生きること。カインズのそんな思いが、本誌からお届けできていたら幸いです。

CAINZ DIY MAGAZINE

マルシェをつくる

発行：2026 年 6 月 25 日

企画 / プロデュース	北川尚宏（カインズ面白事業部 / 面白法人カヤック）
編集 / 執筆	瀬谷薫子
デザイン	根本真路
イラスト	高橋あゆみ（表紙） 加藤豊（p.26-31）
撮影	伊澤絵里奈（p.2-9） 小暮哲也（p.10-13） 松木宏祐（p.14-25） モロイユウダイ（p.12 ※ [※] のみ / p.32 ～ 35）
校正	株式会社聚珍社
印刷	株式会社平賀 東京都練馬区豊玉北 3-20-2

発行元・問い合わせ

株式会社カインズ

埼玉県本庄市早稲田の杜 1-2-1

電話：0120-997-130

（受付時間：10:00 ～ 18:00 ※元日、土日を除く平日）



ホームセンターでおなじみの「カインズ」が、2023年10月から開始したオーダーカット家具シリーズ「CAINZ DIY MARKET (CDM)」。「『自分らしい』暮らしをつくる家具」をコンセプトに、自分の手で研磨し、組み立てて塗装で仕上げるオリジナル家具を展開。「DIY」の本来の意味とは、「DO IT YOURSELF (自分でやってみる)」。

料理もインテリアもアウトドアも、暮らしをつくる物事にはすべて「DIY」の楽しみがあると信じて、自分好みにカスタマイズできる家具を通じ、暮らしに合わせて考え・つくり・使う楽しみを提案しています。本誌のテーマである「#マルシェをつくる」のほか、「#ペットとくらす」「#料理をたのしむ」「#植物に囲まれる」「#読書にふける」など、暮らしにおけるさまざまなシーンで役立つ家具を続々とリリース中。



詳細は公式サイトから